

# CASBEE® - 建築(新築)

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)大橋駅前プロジェクト 新築工	階数	地上13F
建設地	福岡県福岡市南区大橋1丁目35・37	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	0人
地域区分	7地域	年間使用時間	0時間/年(想定値)
建物用途	事務所,飲食店,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年2月 予定	評価の実施日	2020年7月20日
敷地面積	1,457㎡	作成者	中島 隆文
建築面積	758㎡	確認日	
延床面積	7,185㎡	確認者	牛島 昌弥



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 0.7** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100% (276 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

② 建築物の取組み: 90% (230 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③ 上記+②以外の: 90% (230 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

④ 上記+: 90% (230 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

音環境	2.9
温熱環境	2.9
光・視環境	3.2
空気質環境	4.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

機能性	2.7
耐用性	2.7
対応性	2.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.9

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性・	1.5

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 2.6**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.8

建物外皮の	3.2
自然エネ	3.0
設備システ	2.7
効率的	2.7

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

水資源	3.0
非再生材料の	2.5
汚染物質	3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.4

地球温暖化	3.3
地域環境	1.8
周辺環境	2.1

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
計画地が駅前ということもあり人通りも多いため前面道路との関係性に配慮した配置計画とした。	特になし
<b>Q1 室内環境</b> 内装材はF☆☆☆☆を全面的に採用し利用者の健康に配慮した。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 緑地帯を点在させることで周辺環境との調和を図った。また、2階部分にも緑地帯を設けることにより前面道路の歩行者に対し視覚的に圧迫感を軽減できるよう配慮した。
<b>LR1 エネルギー</b> 特になし	<b>LR3 敷地外環境</b> 特になし
<b>Q2 サービス性能</b> デッキやテラスなどの自由に利用できるスペースを広く設けることで、賑わいの創出を図った。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 特になし

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される